

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2024
NOVEMBER

No. 726

Sat.9th November
Subscription Concert

No. 142

Fri.15th November
Tokyo Opera City Series

11



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター	小林杏成
	グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創
	依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理事	阿部武彦 辻 敏
	池辺晋一郎 永山 治
	伊藤美樹 寔野 剛
	大橋 博 南部靖之
	コシジユコ 福川伸次
	菅谷貴子 増岡聡一郎
	竹中平蔵 森 京子

監 事	寺西基之
	渡邊芳樹

評議員長	金山茂人
最高顧問	
評議員	梅沢一彦 星 久人
	鷲海量明 山添 茂
	片山泰輔 芳野まい

特別顧問	飯島延浩
	草壁悟朗
	福田紀彦

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 吉川万理

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 加藤まな
- 福留史純
- 河裾あずさ
- 鈴木浩司
- 辻田薫り
- 阿部真弓
- 坂井みどり
- 塩谷しずか

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 新井瑞穂
- 小西広興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 金田澁司*

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 菅 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 蟹江慶行●
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子
- 渡邊ゆかり*

Double Basses

- 助川 龍
- コーデイ・ローズブーム
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子

Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛

Flute & Piccolo

- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 給理子
- 荒木良太
- 浦脇健太

Oboe & English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子

Bassoons

- 福士マリ子
- 福井 蔵
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 白井有琳*

Trumpets

- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 萌
- ローリー デイラン*

Trombones

- 大馬直人
- 鳥塚心輔
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

- 林 知也
- 加藤幸子

Stage Managers

- 西岡理佐
- 山本 聡

楽団員

- 井伊 準◆

楽団長

- 廣岡克隆

編成局シニアディレクター

- 藤原 真

編成局パーソネルマネージャー

- 謝名元 民

楽団委員

- 北村一平 (議長)
- 多井千洋 (書記)
- 相澤政宏
- 浦脇健太
- 鈴木浩司
- 福留史純

事務局長

- 辻 敏

事務局

- 尾木真雄
- 高瀬 緑
- 梶川純子
- 市川萌都
- 伊藤瑛海
- 榎 日向
- 小川博司
- 桐原美砂
- 長久保太郎
- 三橋真琴
- 山田道子

- 名誉団友
- 深江泰輔 ◆
- 三木晴雄 ◆

団 友

- 大野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依世
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原木利
- 内田彬健
- 内田乃桐子
- 宇部 史
- 梅田 学
- 大隈雅人
- 大塚正昭
- 大基俊男
- 大和田浩明
- 大和田ルース
- 小川さえ子
- 萩野 晃
- 粟田昌史
- 音川健二
- 加藤谷直美
- 笠原尚二
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 黄原亮司
- 小林照雄
- 小林亮子
- 阪本正彦
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 藤崎 隆
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 菅根敦子
- 武田英昭
- 田中真輔
- 千村雅也
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 馬場隆弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアン子・ポーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みさ子
- 諸橋健久
- 渡辺 功
- 渡辺信郎

☆ソロ首席奏者 □客演首席奏者 ○首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター

■本部長 □部長 □シニアディレクター *研究員・準事務局員 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出している鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

11/9 SAT.

第726回 定期演奏会

2024年11月9日(土) 18:00サントリーホール

Subscription Concert No.726

Sat. 9th. November 2024, 18:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]
 マグヌス・ホルマンデル [クラリネット]
 中島郁子 [メゾソプラノ]
 青山 貴 [バリトン]
 東響コーラス [合唱]
 福島章恭 [合唱指揮]
 グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Jonathan NOTT, Conductor
 Magnus HOLMANDER, Clarinet
 NAKAJIMA Ikuko, Mezzo Soprano
 AOYAMA Takashi, Baritone
 Tokyo Symphony Chorus, Chorus
 FUKUSHIMA Akiyasu, Chorusmaster
 Gleb NIKITIN, Concertmaster

ラヴェル: スペイン狂詩曲 (16')

I. 夜への前奏曲 III. ハバナラ
 II. マラゲーニャ IV. 祭り

M. RAVEL: Rapsodie espagnole (16')

I. Prélude à la nuit III. Habanera
 II. Malagueña IV. Feria

ジャレル: クラリネット協奏曲 [Passages]

(スイス・ロマンド管弦楽団/トウールーズ・キャピトル国立管弦楽団/
 東京交響楽団/サンパウロ州立交響楽団による共同委嘱作品・日本初演)

(20')

M. JARRELL: Passages,
 Concerto for clarinet and orchestra

(Commissioned by the Orchestre de la Suisse Romande, the
 Orchestre National du Capitole de Toulouse, the Tokyo
 Symphony Orchestra and the São Paulo State Symphony
 Orchestra/Japan Premiere)

(20')

休憩 (20')

Intermission (20')

デュリュフレ: レクイエム op.9 (45')

I. イントロイトゥス (入祭唱)
 II. キリエ
 III. ドミネ・イエス・クリステ (主イエス・キリストよ)
 IV. サンクトゥス (聖なるかな)
 V. ビエ・イエス (慈悲深きイエスよ)
 VI. アニウス・デイ (神の小羊)
 VII. ルクス・エテルナ (永遠の光で)
 VIII. リベラ・メ (私を解き放って下さい)
 IX. イン・パラディスム (楽園に)

M. DURUFLÉ: Requiem op.9 (45')

I. Introit
 II. Kyrie
 III. Domine Jesu Christe
 IV. Sanctus
 V. Pie Jesu
 VI. Agnus Dei
 VII. Lux aeterna
 VIII. Libera me
 IX. In Paradisum

- 主催 / 公益財団法人東京交響楽団
- 助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援 / 在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

令和6年度(第79回)文化庁芸術祭連携公演

楽曲解説はP.7をご覧ください



【謹告】出演者変更のお知らせ

出演を予定しておりましたクラリネットのマルティン・フレストは、内耳の炎症のため、医師の診断により来日を断念せざるを得なくなりました。代わって、フレスト氏の強い推薦により、マグヌス・ホルマンデルが出演いたします。何卒事情ご賢察の上、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

11/9 SAT.



©K. Miura

Jonathan NOTT

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

東京交響楽団第3代音楽監督。イギリス生まれ。フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマン管音楽監督も務める。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートオペラシリーズ《サロメ》、《エレクトラ》をベストコンサートに導く。レコーディング活動でも多様な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music in all areas of music. As Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra, he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity. Together with the TSO, he won "BEST CONCERT 2023" by Ongaku-no-tomo and "Best 10" by Mainichi Classical Navi for the concert opera series of R. Strauss "Salome" and "Elektra" as well as the 2020 Music Pen Club Japan Award. Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE and OCTAVIA.

Clarinet Magnus HOLMANDER

マグヌス・ホルマンデル [クラリネット]

スウェーデン出身。ヨーロッパ・コンサートホール協会の「ライジング・スター」に選出され、コンサート・ヘボウ、エルプフィルハーモニー、楽友協会などの一流ホールの演奏会に出演。音楽家でありマジシャンでもあるホルマンデルは、しばしば演奏にマジックを取り入れ、躍動感あふれるパフォーマンス、圧倒的な存在感、魔法のようなタッチが高く評価され、クラシック音楽界に独自の世界を築き上げた。彼の実験的好奇心と芸術的多才さは、多くの現代作曲家にインスピレーションを与え、緊密なコラボレーションを行っている。最近では、フレスト指揮スウェーデン放送響とヤコブ・ミュールラッドのクラリネット協奏曲の世界初演を行った。

クラリネットのスーパースター、マルティン・フレストはその才能を認め「最も本格的なクラリネット奏者のひとり」と称賛している。
@magnusholmander



©Nadja Sjöström

Mezzo Soprano NAKAJIMA Ikuko

中島郁子 [メゾソプラノ]

東京藝術大学卒業、同大学院修了後、渡伊。第15回リッカルド・ザンドナーイ国際声楽コンクール・ザンドナーイ特別賞、第14回ロッカ・デッレ・マチエ国際声楽コンクール第2位等多数受賞。日生劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、びわ湖ホール『ワルキューレ』フリッカ、二期会『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『蝶々夫人』スズキ、東京・春・音楽祭『仮面舞踏会』ウルリカ等で活躍。また、モーツァルト及びヴェルディ「レクイエム」、マーラー「大地の歌」「千人の交響曲」等でも高い評価を得ている。東京藝術大学准教授。二期会会員



Baritone AOYAMA Takashi

青山 貴 [バリトン]

東京藝術大学卒業、同大学院修了。二期会及び新国立劇場オペラ研修所修了。イタリアにて研鑽を積む。二期会『ナブッコ』タイトルロール、日生劇場『セビリアの理髪師』フィガロ、びわ湖ホール『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ザックス、≪ニーベルングの指輪≫ヴォータン、東京・春・音楽祭『マクベス』『仮面舞踏会』、新国立劇場『サロメ』ヨハナーン等の他、24年同『トスカ』ではスカルピアにて急遽出演、好評を博した。コンサートでも、パッハ「口短調ミサ」「マタイ受難曲」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」等で活躍。二期会会員



11/9 SAT.

Chorusmaster FUKUSHIMA Akiyasu

福島章恭 [合唱指揮]

桐朋学園大学卒。大阪フィル合唱団指揮者。ベルギーにてF.ベルニウスの合唱指揮マスタークラス受講。バッハ「口短調ミサ」「マタイ受難曲」(ライプツィヒ)、モーツァルト「レクイエム」(ウィーン)、ブラームス「ドイツ・レクイエム」(ベルリン)、ドヴォルザーク「ミサ曲ニ長調」(プラハ)等、欧州での指揮機会も多い。音楽評論家として、1994年アリオン賞(柴田南雄音楽評論賞)奨励賞受賞。著書「新版クラシックCDの名盤」(宇野功芳、中野雄 共著 文春新書)他。



Tokyo Symphony Chorus

Chorus 東響コーラス [合唱]

1987年に東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指揮者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招いている。公演毎に出演者を決定するオーディションを行うことで、常に演奏の質を高めている。2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「室内楽・合唱部門」受賞。

コロナ禍によりしばらくの活動休止期間を経て、2021年9月「名曲全集」にて東京交響楽団と2年ぶりの共演。音楽監督ジョナサン・ノットと2年半ぶりの共演となった2022年5月「ウォルトン：ベルシャザールの饗宴」、同年12月「ベートーヴェン：交響曲第9番」は絶賛を博した。

メンバー表

●合唱指揮：福島章恭

稽古ピアニスト：古瀬安子

●委員長 岡 邦子 (Sop.)

●副委員長 鳥居順子 (Sop.)

奥貫壮史 (Ten.)

堀 浩史 (Bas.)

●パートリーダー

Sop. (正) 遠藤由理 (副) 佐藤由紀子

Alt. (正) 水越睦美 (副) 渡邊朋子

Ten. (正) 枇杷高志

(副) 内山誠彦、増淵 隆

Bas. (正) 早川克己 (副) 竹内誠治

●コーラス委員

Sop. 本行佳奈、増淵由佳、森田恵子

Alt. 藤崎幸子、鎗水みお、吉村美恵子

Ten. 木村 健、田戸陽一

Bas. 篠田一朗、富岡 光、西村 真

Soprano

石村友希子

伊藤真子

岩元邦子

内野英子

遠藤由理

大貫由香

岡 邦子

小笠原美貴

奥泉亮子

小野寺美和

川崎仁美

川之上裕美子

草野真由美

五味川裕美

佐藤かえで

佐藤深雪

佐藤由紀子

瀬沼紀子

鳥居順子

仁平朋子

東原なお

平尾祥子

平川暢子

平田 菜

藤記富子

本行佳奈

増淵由佳

松本恵美

山下由美子

山之内文子

吉井真祈

Alto

東 恭代

石渡範子

伊藤晴子

伊藤弥緒乃

上原ハルミ

江藤祐子

岡本いつか

奥秋和歌子

奥山由里

尾崎いずみ

尾島夕里

尾田雅代

小名雅恵

加藤由美子

菊池万美子

木内道子

松本恵美

小林朋子

小浜さゆり

齋藤由紀

佐々木美登

佐藤理恵

須田眞理子

関口あずみ

高田恵子

竹内あゆみ

谷野仁美

筒井敬子

外山恭子

福島里美

藤崎幸子

藤田 栄

堀西香織

水越睦美

鎗水みお

吉井久美子

吉岡美佳子

吉村美恵子

和田真理

渡邊朋子

Tenor

内山誠彦

大崎 純

大島克義

大図健史

小川英樹

奥貫壮史

菅野広和

木村 健

鈴木徹也

竹内邦夫

竹田 忍

竹本大祐

田戸陽一

辻 直浩

中原裕幸

名塩 優

嶋 大二

菱田明宏

枇杷高志

穂谷岳征

増淵 隆

和田 敬

Bass

荒木康司

安藤志津夫

井之上隆太

今井俊博

河村太郎

菊池 靖

木内正則

河野 愛

小山治彦

篠田一朗

清水 達

竹内誠治

土井 丈

富岡 光

西村 真

萩野 慎

早川克己

堀 浩史

水野 敬

宮坂知明

宮寺 昇

守谷隆一

柳谷一彦

山崎弘光

山之内達也

渡辺理公男

モーリス・ラヴェル(1875～1937)

スペイン狂詩曲

「スペイン狂詩曲」は、モーリス・ラヴェルが初めて手がけた大規模な管弦楽曲である。

バスク地方(フランスとスペインの国境に位置する)出身の母をもつラヴェルは、スペインに特別な愛着を抱いていた。1907年はラヴェルにとっての「スペイン年」で、歌曲「ハバネラ」の形式によるヴォカリーズ=エチュード、オペラ『スペインの時』もこの年に作曲・着手されている。「スペイン狂詩曲」は最初2台ピアノのために作曲され、その後管弦楽化された作品で、約10年前にラヴェルが作曲した2台ピアノ曲「耳で聴く風景」中の「ハバネラ」の管弦楽版も挿入されている。初演は成功を収め、それまでもっぱらピアノ曲で評価を高めてきたラヴェルは、すぐれた管弦楽書法によってもこれ以降知られることとなった。スペイン音楽の諸要素を、洗練されたオーケストレーションに織りこむラヴェルの手腕は見事である。

「夜への前奏曲」では4音のモチーフの反復が、暑さの残る夕暮れを喚起する。このモチーフは第2曲と第4曲にも現れる。3拍子のフラメンコの一種である「マラゲーニャ」では、謎めいた冒頭を経て、熱狂と憂鬱が気まぐれに交替する。ビゼーのオペラ『カルメン』でも馴染み深い、付点のリズムをもつキューバ起源の踊り「ハバネラ」の、ゆったりとした気だるい動きからは、官能的な香りが立ち上る。ドビュッシーは「ハバネラ」の2台ピアノ版の楽譜をラヴェルから借りたあと「グラナダの夕べ」を作曲したが、その後「ハバネラ」と「グラナダの夕べ」の類似性が指摘されるようになったため、ラヴェルはドビュッシーへの対抗心から、管弦楽版の楽譜に原曲の作曲年を明記している。「祭り」は闘牛や縁日が行われる祭り(フェリア)を描いた、ホタ(アラゴン起源の3拍子の舞踊音楽)にもとづく賑やかな音楽。旋回するような音型をタンバリンとカスタネットが彩り、物憂げな中間部を経て、熱狂のうちに幕となる。

平野貴俊 Text by HIRANO Takatoshi

作曲: 1907～08年

初演: 1908年3月15日パリ、シャトレ座、エドゥアール・コロヌ指揮、コロヌ管弦楽団

編成: ピッコロ2、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンバリン、カスタネット、中太鼓、タムタム、シロフォン、チェレスタ、ハープ2、弦5部

11/9 SAT.

ミカエル・ジャレル(1958～)

クラリネット協奏曲「Passages」

(スイス・ロマンド管弦楽団/トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団/東京交響楽団/サンパウロ州立交響楽団による共同委嘱作品/日本初演)

「パッセージ (Passages)」は、スイス・ロマンド管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、東京交響楽団、サンパウロ州立交響楽団による共同委嘱作品で、マルティン・フレストのために書かれた。

2023年に作曲された本作品は、私の創作上のアプローチの基礎をなす旋律、色彩、時間とリズムの構造という諸要素を統合する方法について、近年私が行ってきた検討を深化させたものである。

これまでに私が作曲した協奏曲と比較してもなお、本作では和声とオーケストレーションが十分に活用されている。それによって複雑でゆたかな空間が作りだされ、素材は終始絶え間ない差異化を被る。

作曲中、本作のタイトルである「Passages」[訳注:「流れ」、「通過」などを意味するフランス語の複数形]という語が、私が音楽に与えたいと願っていた流動性と有機性を的確に表現しているように感じられた。

Passage d'une figure ou d'une note du soliste à l'orchestre

ソリストからオーケストラへの、ひとつの音型あるいは音の流れ

Passage d'une figure ou d'une note à travers l'orchestre

オーケストラのあいだでの、ひとつの音型あるいは音の流れ

Passage d'un timbre à un autre

ひとつの音色から別の音色への流れ

Passage d'un temps à un autre

ひとつの時間から別の時間への流れ

Passage d'une idée musicale à une autre, d'un instant à un autre

ひとつの楽想から別の楽想へ、ひとつの瞬間から次の瞬間への流れ

Passage entre parties sombres et lumineuses

暗いセクションと明るいセクションのあいだの流れ

Passage vers le silence

沈黙へ向かう流れ

世界初演を担うクラリネット奏者、マルティン・フレストは傑出した奏者であるだけでなく、「舞踏的」で「踊るような」演奏を好んで行う音楽家である。「Passages」のいくつかのセクションは、彼にインスピレーションを受けて書かれた。たとえば、冒頭でソリストが巨大な和音／空間を作りだすと、最初のクライマックスが築かれるが、このとき小さな踊りのような動きが始まり、ソリストは2つの音を何度も繰り返す。

その後に登場する、独奏クラリネット、ピアノ、ハーブ、打楽器が演奏するホモフォニックなパッセージにも、運動という発想が表れている。

ミカエル・ジャレル Text by Michael JARRELL (訳:平野貴俊)

作曲:2023年

初演:2023年10月4日ジュネーブ、マルティン・フレスト独奏、ジョナサン・ノット指揮、スイス・ロマンド管弦楽団

編成:クラリネット独奏、フルート3(ピッコロ持替1)、アルトフルート持替1)、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、アンティークシンバル、ピッコロ、カウベル、ボンゴ、シンバル、銅鑼、グロックケンシュピール、木琴、トライアングル、スプリングコイル、チューブラーベル、テンブルブロック、ウッドブロック、トムトム、大太鼓、ティンパレス、ニコフーン、鈴、ハーブ1、ピアノ、チェレスタ、弦5部

モーリス・デュリュフレ(1902～1986)

レクイエム op.9

オルガン奏者でもあったフランスの作曲家モーリス・デュリュフレの「レクイエム」は、作品番号付きの作品を14しか残さなかったデュリュフレの代表作であり、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレの作品に代表される、キリスト教の典礼的レクイエムの系譜の最後を飾る作品である。

デュリュフレは、「死者のためのミサ」(レクイエム)のグレゴリオ聖歌にもとづくオルガン組曲を作曲していた。第2次世界大戦中、ヴィシー政府(ドイツに降伏したフランスが設置した傀儡政府)から「交響詩」の委嘱を受けたデュリュフレは、この組曲を独唱、合唱、オーケストラのために作り変えて委嘱に応じることとし、約6年かけて「レクイエム」を完成した。死者の日(11月2日)に国営ラジオで放送され初演された本作が、戦死者への追悼の音楽であることはまちがいない。ただし作曲者は、死を前にした人間の苦しみ全般を希望、諦め、恐怖の音楽化を通して表現した作品であると語っており、楽譜には、作曲中に亡くなった父への献辞も掲げられている。同じく穏やかで親密な表情をもつフォーレの「レクイエム」(1900～01)としばしば比較されるが、本作はフォーレの作品と異なり、聖歌が主要な音楽素材として用いられている。今回演奏されるフル・オーケストラ+オルガン版のほか、小編成オーケストラ+オルガン版、オルガン伴奏版の演奏でも広く親しまれている。

「イントロイトゥス(入祭唱)」を経て、「キリエ」では「入祭唱」と同じ雰囲気のほか、合唱が声を美しく交錯させる。不穏な「ドミネ・イエス・クリステ」の後、「入祭唱」冒頭に似た弦楽器の音型で「サンクトゥス」が始まり、長大なクレッシェンドが築かれる。「ピエ・イエス」ではメゾソプラノが陰影に満ちた旋律を歌う。「アニユス・デイ」で弦楽器が奏する哀切な旋律と、合唱の滔々とした音の流れは、主の寛大さを表すかのようだ。木管楽器が朴訥とソロを奏でる「ルクス・エテルナ」、劇的な「リベラ・メ」に続き、最終曲「イン・パラディスム」では、合唱の光明あふれる響きをホルンとオルガンが彩る。

平野貴俊 Text by HIRANO Takatoshi

作曲: 1941～47年

初演: 1947年11月2日パリ(国営ラジオにて放送)、ロジェ・デゾルミエール指揮、フランス国立管弦楽団

編成: メゾソプラノ独唱、バリトン独唱、混声合唱、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、シンバル、大太鼓、タムタム、チェレスタ、ハープ1、オルガン、弦5部

11/9 SAT.

デュリュフレ／《レクイエム》(死者のためのミサ)

Maurice Duruflé / "Requiem" op.9

I. Introit

Requiem æternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Te decet hymnus Deus in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem,

exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.

Requiem æternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.

II. Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

III. Domine Jesu Christe

Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
libera animas omnium
fidelium defunctorum
de pœnis inferni, et de profundo lacu,

libera eas
de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus,
ne cadant in obscurum.

Sed signifier sanctus Michael
repræsendet eas lucem sanctam,

Quam olim Abrahamæ promisisti
et semini ejus.

I. イントロイトゥス(入祭唱)

主よ、彼らに永遠の安息を授けて下さい。
そして絶えることのない光が
彼らを照らすようにして下さい。

神よ、シオンではあなたにふさわしい賛歌が歌われ、
エルサレムでは
あなたへの誓いが成就されます。

どうぞ私の祈りを聞いて下さい、
肉体あるものはみな、
あなたへと向かって行きます。

主よ、彼らに永遠の安息を授けて下さい。
そして絶えることのない光が
彼らを照らすようにして下さい。

II. キリエ

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

III. ドミネ・イエス・クリステ(主イエス・キリストよ)

主イエス・キリストよ、栄光ある王よ、
すべての、忠実な
死せる者の魂を
地獄の罰と、深い淵から解き放して下さい。

彼らを
ライオンの口から解き放ち、冥府が彼らを
飲み込むことがないようにして下さい。
彼らが闇の中へ陥らないようにして下さい。

旗手たる聖ミカエルが
彼らに光を示してくれますように。

かつてあなたがアブラハムと
その子孫に約束なさったように。

Hostias et preces tibi Domine
laudis offerimus,
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus;

fac eas, Domine,
de morte transire ad vitam.

Quam olim Abrahæ promisisti
et semini ejus.

IV. Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt cœli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

Benedictus
qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

V. Pie Jesu

Pie Jesu Domine,
dona eis requiem,
requiem sempiternam.

VI. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem,
requiem sempiternam.

VII. Lux æterna

Lux æterna luceat eis, Domine,
cum sanctis tuis in æternum,
quia pius es.

Requiem æternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Quia pius es.

主よ、私たちはあなたに
賛美のいけにえと祈りとを捧げます。
それをこの魂たちのために受け入れて下さい、
私たちは今日を彼らの記念にしているのです。

主よ、彼らを死から生へと
移してやって下さい、

かつてあなたがアブラハムと
その子孫に約束なさったように。

IV. サンクトゥス(聖なるかな)

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の主なる神は。
天も地もあなたの栄光に満ちています。
いと高きところにホサナ(いま救いたまえ)。

ほむべきかな、
主の御名(みな)によって来る人は。
いと高きところにホサナ。

V. ピエ・イエス(慈悲深きイエスよ)

慈悲深きイエスよ、
彼らに安息を、
永遠の安息を授けて下さい。

VI. アニュス・デイ(神の小羊)

世の罪を取り除いて下さる神の小羊よ、
彼らに安息を授けて下さい。
世の罪を取り除いて下さる神の小羊よ、
彼らに安息を授けて下さい。
世の罪を取り除いて下さる神の小羊よ、
彼らに安息を、
永遠の安息を授けて下さい。

VII. ルクス・エテルナ(永遠の光で)

主よ、永遠の光で彼らを照らして下さい、
あなたの聖人たちとともに、永遠に。
あなたは慈悲深き方なのでから。

主よ、彼らに永遠の安息を授けて下さい。
そして絶えることのない光が
彼らを照らすようにして下さい。
あなたは慈悲深き方なのでから。

11/9 SAT.

VIII. Libera me

Libera me, Domine,
de morte æterna, in die illa tremenda,
quando cœli movendi sunt et terra,
dum veneris judicare sæculum
per ignem.

Tremens factus sum ego, et timeo,
dum discussio venerit, atque ventura ira.

Quando cœli movendi sunt et terra.

Dies illa, dies iræ,
calamitatis et miseriæ,
dies magna et amara valde.

Dum veneris judicare sæculum
per ignem.

Requiem æternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Libera me, Domine,
de morte æterna, in die illa tremenda,
quando cœli movendi sunt et terra,
dum veneris judicare sæculum
per ignem.

Libera me, Domine, de morte æterna.

IX. In Paradisum

In Paradisum deducant te Angeli,
in tuo adventu suscipiant te martyres,
et perducant te
in civitatem sanctam Jerusalem.

Chorus Angelorum te suscipiat,
et cum Lazaro quondam paupere
æternam habeas requiem.

VIII. リベラ・メ (私を解放して下さい)

主よ、私を永遠の死から
解放して下さい、その恐ろしい日に。
天と地が揺れ動き、あなたが訪れて
世々の人々を劫火(ごうか)で裁く、
その恐ろしい日に。

来るべき怒りが、裁決が下されるので
私は震えおののいています。

天と地が揺れ動く日に。

その日は怒りの日、
破滅とわざわいの日、大いなる日、
しかしとても忌まわしい日です。

世々の人々を劫火(ごうか)で裁く、
その恐ろしい日に。

主よ、彼らに永遠の安息を授けて下さい。
そして絶えることのない光が
彼らを照らすようにして下さい。

主よ、私を永遠の死から
解放して下さい、その恐ろしい日に。
天と地が揺れ動き、あなたが訪れて
世々の人々を劫火(ごうか)で裁く、
その恐ろしい日に。

主よ、私を永遠の死から解放して下さい。

IX. イン・パラディスム (楽園に)

天使たちがあなたを
楽園に導いて行きますように。
殉教者たちがあなたの到着を迎え、
そして聖なる街エルザレムに
あなたを導きますように。

天使の一群があなたを受け入れ、
かつて貧しかったラザロとともに
あなたが永遠に安息を得られますように。

11/15 FRI.

東京オペラシティシリーズ 第142回

2024年11月15日(金)19:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.142

Fri. 15th. November 2024, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

大木麻理 [オルガン]

伊藤文嗣 [チェロ]

務川慧悟 [ピアノ]

小林孝成 [コンサートマスター]

Jonathan NOTT, Conductor

OHKI Mari, Organ

ITO Fumitsugu, Cello

MUKAWA Keigo, Piano

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

リゲティ: ヴォルーミナ (16')

ハイドン: チェロ協奏曲 第1番

ハ長調 Hob.VIIb:1 (25')

I. モデラート

II. アダージョ

III. アレグロ・モルト

G.LIGETI: Volumina(16')

F.J.HAYDN: Cello Concerto No.1

in C major Hob. VII b:1(25')

I. Moderato

II. Adagio

III. Allegro molto

休憩 (20')

Intermission (20')

モーツァルト: ピアノ協奏曲 第9番

変ホ長調 K.271 「ジュノム」(35')

I. アレグロ

II. アンダンティーノ

III. ロンド

W.A.MOZART: Piano Concerto No.9

in E-flat major K.271 "Jeunehomme"(35')

I. Allegro

II. Andantino

III. Rondo

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)|独立行政法人日本芸術文化振興会

●後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

新宿フィールドミュージアム参加公演

楽曲解説はP.13をご覧ください



文芸春秋
F. Ueda for G. Ueda and T. Ueda
Tokyo Opera City Series

11/15 FRI.

Organ OHKI Mari

大木麻理 [オルガン]

東京藝術大学、同大学院修了。DAAD、ポセール財団の奨学生としてリュベックおよびデトモルト国立音楽大学を卒業。

第3回ブクステフーデ国際オルガンコンクール邦人初優勝、第65回「プラハの春」国際音楽コンクールオルガン部門第3位、ほか国内外で多数受賞。リリースしたCDがいずれもレコード芸術特選盤に選出。豊かな音楽性と高度なテクニック、丁寧な音色作りは各所で高い評価を受けている。

東洋英和女学院大学講師。ミュゼザ川崎シンフォニーホールオルガニスト。



©Mari Kusakari

Cello ITO Fumitsugu

伊藤文嗣 [東京交響楽団ソロ首席チェロ奏者]

1986年神奈川県出身。東京藝術大学を経て、同大学大学院修士課程修了。第9回ビバホールチェロコンクール第2位。2008年～2010年N響アカデミーに在籍。これまでにサイトウ・キネン・オーケストラ、東京・春・音楽祭、ジャパンヴィルトゥオーゾシンフォニーオーケストラ、マロオケ、北九州響ホールフェスティバル、防府音楽祭、赤穂国際音楽祭プリ・コンサート、姫路国際音楽祭プリ・コンサート、アフィニス・アンサンブル・セレクション他多数出演、客演首席奏者としても国内主要オーケストラに招かれている。これまでにチェロを山崎伸子、河野文昭、藤森亮一の各氏に師事。



©N Ikegami

Piano MUKAWA Keigo

務川慧悟 [ピアノ]

2021年世界三大コンクールの一つである、エリザベート王妃国際音楽コンクールにて第3位受賞。2019年にはフランスで最も権威のある、ロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールにて第2位受賞。長い歴史と伝統のある2つの国際コンクールの上位入賞で大きな注目を集め、現在ヨーロッパを拠点に協奏曲、室内楽、ソロ、古楽器での演奏と幅広く演奏活動を行っている。

2024年、第33回出光音楽賞受賞。レパートリーはバロックから現代音楽まで幅広く、各時代、作曲家それぞれの様式美が追求された演奏、多彩な音色には定評がある。

Official Website: <https://keigomukawa.com/>



©Yuji Ueno

ジェルジ・リゲティ (1923 ~ 2006)

ヴォルーミナ

ジェルジ・リゲティの音楽といえば、密集した音の塊、すなわち「トーン・クラスター」を思い浮かべる人が多いだろうが、この技法を用いた代表作《アトモスフェール》(1961)を作曲した直後、彼はグラフィックな(図形的な)楽譜と、そしてオルガンという楽器に目をつけることになる。たしかに独奏で巨大な音塊を扱えるという点で、オルガンに勝る楽器はない。こうして1962年、《ヴォルーミナ》が誕生した。

グラフィックとはいうものの、当然のことながらその記譜はアメリカの実験作曲家たちのそれとは、一線を画している。この作品における記譜法は、クラスター(音塊)の幅と質、長さ——楽譜1頁が約45秒と定められている——がかなり正確に記されており、見た目の印象よりははるかに解釈の幅は小さい。

クラスターには黒鍵のみ、白鍵のみなどの区別や、詳細なストップの指定があるが、後のリゲティ作品と比べてときに、緻密さの点で、やや素朴であることは指摘できるかもしれない。しかし、掌のみならず、時には腕全体を使用することが要求されている巨大なクラスターが隕石のように空間を飛び交う様は圧巻で、おそらくはこうした荒削りとも言える発想が、作品の最大の魅力だろう。

曲は、突如として巻き起こる分厚いクラスターで幕をあける(初演ではオルガンの電気回路が負荷に耐えられず、発火したという)。響きが一旦静まった後、蛇行しながらフォルテシモに達すると、やがて細い線に収斂して中間部のクライマックスを待つ。中間部では、クラスターが両手両足に分担されて散乱し、音の塊があちらこちらから聴き手に投げつけられる。このダイナミズムは音楽史にほとんど先例のないものだろう。やがて、音群はゆるやかに移動しながら、再び長い一本の線におさまり、ゆっくりと曲を閉じる。

1961年12月から翌年1月にかけて作曲された後、1966年に改訂が加えられた。細かい動きやクラスターの質などに若干の変更があるほか、改訂版の方が1頁あたりの演奏時間制限が厳密になっている(本日使用されるのもこの版)。

沼野雄司 Text by NUMANO Yuji

作曲: 1961 ~ 62年(66年改訂)

初演: 1962年5月4日アムステルダムにて、カール=エーリク・ヴェリンの独奏

編成: オルガン独奏

11/15 FRI.

ヨゼフ・ハイドン(1732～1809)

チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb:1

《チェロ協奏曲第1番》は、ハイドンがエステルハージ家の副楽長だった1762年から1765年頃の作とされている。ただし、作曲の経緯や、初演がいつ、どのような状況で行なわれたのかなど、詳しいことは何も分かっていない。本作の楽譜は長らく消失したものとされていたが、1961年になってプラハで筆写譜が発見されたことによって、再び日の目を見ることとなった。

当時のエステルハージ家は、領主のニコラウス侯が無類の音楽好きだったこともあって、すぐれた演奏家を数多く擁する、ヨーロッパでも屈指の宮廷楽団を抱えていた。この協奏曲も、おそらくは宮廷楽団のチェロ奏者、ヨゼフ・ヴァイグル(1740～1820)のために書かれたものと思われる。ハイドンは、作曲時はまだ20代前半だったこの若き才能を高く買っていたようで、同じ時期に手がけたいくつかの交響曲でもチェロのソロパートを盛り込んでいる。ふたりの親交は、ヴァイグルが1769年にエステルハージ家を去り、ウィーンに拠点を移したあとも続いていった。

第1楽章 フランス風序曲を思わせる堂々とした身振りで始まる。オーケストラが奏する優雅な主題をチェロが引き継ぎ、キレのあるパッセージと柔らかな抒情性をほどよい具合に織り交ぜながら、さらに音楽を展開させてゆく。終盤には、チェロのカデンツァも待っている。

第2楽章 ゆったりとしたテンポの、味わい深い楽章。一音一音をいつくしむかのように、チェロが旋律を紡ぎ出してゆく。中盤で音楽に影が差し、緊張が高まるも、再びもとの主題が戻ってきて、最後はカデンツァに彩られて穏やかに閉じられる。

第3楽章 軽やかに疾走するフィナーレ。チェロも広い音域の中で躍動し、音楽にいつそうの活気を与えてゆく。曲中で何度も顔を出す、オクターヴを駆け上がるチェロのパッセージがとりわけ印象的だ。

池上健一郎 Text by IKEGAMI Ken'ichiro

作曲：1762～1765年頃

初演：不明

編成：チェロ独奏、オーボエ2、ホルン2、弦5部

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)

ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K.271 「ジュノム」

モーツァルトが21歳の時の作。1777年1月、フランスの女性ピアニスト、ルイーズ・ヴィクトワール・ジュナミが、演奏旅行の途上でザルツブルクを訪れたことが作曲のきっかけである。おそらく高い技能の持ち主だったのだろう。彼女が演奏することを想定して書かれた本作は、これまで手がけたピアノ協奏曲に比べて、明らかに規模が大きく、表現の幅も広がっている。モーツァルト本人も出来栄えには満足していたようで、この年の秋に出発することになるマンハイム・パリ旅行にも楽譜を携えていったほか、1781にウィーンに移住したあとも演奏していたようだ。

ピアニストは、近年になって人物が特定されたが、かつては「ジュノム」という名のみが知られていた。ここにち定着している副題は、その名残である。ちなみに、ジュナミの父は、ジャン＝ジョルジュ・ノヴェール(1727～1810)。バレエの革新によって名を馳せた舞踏家である。

第1楽章 冒頭、オーケストラの力強い分散和音に続いて、早くもピアノが登場する。モーツァルトの実験的精神がうかがえる、当時の協奏曲としては異例の始まり方だ。その後も、オーケストラとピアノが対話するように曲が展開してゆく。セレナーデ風の愛らしい旋律も耳を楽しませてくれる。

第2楽章 ハ短調の重苦しい響きに包まれる中、ピアノが悲嘆にくれるような主題を歌わせる。その後長調に転じて、その旋律はどこか物憂げだ。レチタティーヴォを思わせる終盤のカデンツァも含め、まるでオペラの一場面のような楽章。

第3楽章 軽快なピアノの独奏で始まる、くだけた雰囲気のリンド楽章。全体に、さながらオーケストラ伴奏付きのピアノ曲といった趣だ。中盤、突如として曲調が変わり、フランスの宮廷舞曲であるメヌエットが差し挟まれるのは、ジュナミの出身国、あるいは父ノヴェールをほのめかず、モーツァルトなりのウィットかもしれない。

池上健一郎 Text by IKEGAMI Ken'ichiro

作曲：1777年1月

初演：1777年？

編成：ピアノ独奏、オーボエ2、ホルン2、弦5部

この秋、二人の“イトウ”が
ハイドンのコンチェルトに挑む！

伊藤 文嗣

(東京交響楽団チェロソロ首席)



伊東 裕

(東京都交響楽団チェロ首席)

スペシャル対談



この秋、偶然にも同じ「イトウ」という名字を持つふたりのオーケストラ奏者が、およそ2週間の時間差で、それぞれの音楽監督とともに同じハイドンのチェロ協奏曲第1番に挑もうとしています。

この奇跡的な出来事を見逃すまいと、「ふたりの“イトウ”スペシャル対談」を敢行！不思議な巡り合わせを感じさせるお二人ですが、名前だけではない意外な共通点もあった！？

文嗣:実は僕、「協奏曲」をプロのオーケストラで弾くのは初めてなんです。2021年に弾いたR.シュトラウスの「ドン・キホーテ」は交響詩だったので、今回やっと経験できる。ハイドンの1番^{*1}っていうのがまたいいなど。

裕:ご自分で選曲されたんですか？

文嗣:ノット監督から「ハイドンの1番と2番、どっちがいい？」ときかれて。

裕:僕もまず曲の希望をきかれて、「ドン・キホーテ」をリクエストしたんですよ。そうしたら編成の都合で難しくて。もう少し

小さな編成の曲をイメージしたときにハイドンの1番を弾きたいと思って。

文嗣:他の曲と迷うことはなく？

裕:本当に好きな曲なので、ぜひこの曲を演奏したいと思って選びました。

文嗣:初めて弾いたコンチェルトだった？

裕:そうだと思います。小学校6年生のとき、コンクールのために練習した記憶があります。

文嗣:僕は中1ぐらいかな。同じく、多分初めて弾いたコンチェルトで。藝大の受験の課題曲もこの曲だったんですよ。

—2番とはどういう違いがありますか？

裕:多分2番を先に勉強する人は少ないのではないかと思います。

文嗣:応用編というか、若干アドバンストな感じがするよね。3楽章が8分の6拍子っていうのも少し難しいと思います。

裕:1番の方がリズムカルというか、縦の

^{*1}:ハイドンのチェロ協奏曲第1番:第2番とともに古典派を代表するチェロ協奏曲として親しまれている。コンクールの課題曲としてしばしば取り上げられており、若いチェリストが学習過程で演奏することも多い。



バウンド感みたいな印象が強くて。2番はどちらかという横の流れ、流動的な長いフレーズを感じます。

文嗣: そうだね。そもそも最初のテーマのキャラクターが違うもんね。1番の方が躍動的で弾むような。2番の方はもう少し揺らぎとか横の流れとか、流麗な感じがする。

裕: ビバコンクール*2の本選で2番を弾かれていましたよね。

文嗣: そうそう。

裕: 学生のとき、文嗣さんの2番の演奏が素晴らしかったという話をよく聞きました。コンクールの課題曲の中でハイドンの2番を選ぶ人は少ないんですよ。

文嗣: 日本音楽コンクールは課題曲が一つに定められているけど、ビバコンクールは、5、6曲ぐらいある候補の中から好きな曲を選んで弾く。コンクール向きの曲が実際あるのかわからないんだけど、ハイドンの2番は不利な曲って言われてい

て、だからあえて選んだっていう(笑)

裕: すごい!

文嗣: 結果よりチャレンジしたいっていう気持ちでやってみたんだよね。

— 1番の好きなところを教えてください。

文嗣: 出だしですね。だけど難しい。僕はなかなか上手く弾けない。

裕: 付点のリズムと和音の弾き方が難しいですよ。僕は1楽章の第2主題で音が上っていくところが好きです。

文嗣: 綺麗だよ。最後まで一気に向かっていくきっかけになる場所は、ハイドンに限らずどの曲も好きなんです。それは当然ハイドン1番にもあって、そういうクライマックスのきっかけになる前後のところをすごく大事にしたい。3楽章でまくし立てていくじゃない? そこが必然的に“来た!”って思えるようにしたい。あそこを弾き終わった後に、「はあー」っていう

*2: ビバホールチェロコンクール: 1994年から2年に1度、兵庫県養父市で開催される若手チェリストの登竜門。



Symphony Lounge [シンフォニーラウンジ]

伊藤文嗣(東響チェロソロ首席) ×
伊東裕(都響チェロ首席) スペシャル対談

感じじゃなくて、到着したっていう、喜びで終われたらいいなと思うんだよね。

一 音楽監督の音楽づくりの

特徴や傾向を教えてください。

裕:大野さんは靈感というか、音楽のパワーを感じる感性がとてつもなく強い人だと普段から感じていて。知識の豊富さもすごいんですけど、一番感じるのはいっぱいインスピレーションというか、大野さんにしかない靈感で音楽を動かした瞬間に感じる特別なパワー。ハイドンの作品は初めて一緒するんですけど、大野さんの持っている感性を最大限に受け止めながら、自分からも発信して、化学反応的にいいものを作り出していけたらと思っています。

文嗣:ノット監督はものすごく即興的で、振り方も毎回違う。ただ全ての曲にあてはまるのは“ストーリー”。彼は「旅」ってよく言うんですけど、プログラムを一つの「旅」と捉えている傾向があって。プログラムの最後までを見据えた1音を提示してくる。そしてその1音を、彼が想定しているものと違うふうにオケが演奏した場合には、その音から構築し直しているよう

な気がするんです。だから即興的になるんですけど。間の取り方も毎回変わるし、こちらはなぜ変わったかを考えなきゃいけない。ノット監督の持つストーリーと、それに対する東響メンバーの反応、そして僕が考えるストーリー。それらがかけ合わさって、本番でどうなるのかは本当に読めないけど、これまで一緒にやってきた関係性があるので、監督が演奏中に送ってくるメッセージに対して丁々発止のやり取りで演奏できたらいいと思います。そういったコミュニケーションを楽しんでもらいたいです。

裕:都響をバックにコンチェルトが弾けることはこの上なく幸せで、大きなチャンスだと感じています。自分の感性を最大限生かして、大野さん、素晴らしい都響の団員の方々と、自分にしかできない演奏を作り上げたい。それがお客さんにも楽しんでいただけたら本当に幸せです。

取材協力:東京都交響楽団、撮影・まとめ:ぶらあぼ編集部

全編・ダイジェスト動画は
ぶらあぼONLINEにてご覧いただけます。



Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(10月24日現在、五十音順)。

ご芳名 (敬称略)

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鯨株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人渡邊芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N Ikegami

ご芳名 (敬称略)

個人会員

サークル50

伊藤 晴美
伊藤 美樹
沖田 陽子
鷺海 暈明
木暮 紀子
澤田 秀雄
清水 尚彦

山 啓次
長瀬 雅則
山口 積恵
山口 知子☆
山口 学
匿名 3名
匿名 3名
☆名誉バトロン

サークル25

石川 晴依世
猪田 隆文
井上 孝昭
岡野 一哉
加藤 英輔
後藤 実

鈴木 信恵
手塚 和彦
戸川 二郎
平山 智史
山本 誠一郎
匿名 3名

サークル10

天野 佳和
荒木 陽子
五十嵐 建平
井澤 菜緒子
岩田 新
内山 誠彦
梅沢 麻衣
遠藤 秀和
大内田 由紀子
大城 明幹
大崎 明子
大島 肇
太田 純子
大塚 具幸
大類 浩
岡 邦子
*小野 博道
小野 泰輔
片山 千栄
片山 尚弘
金山 尚生
金田 賢市
木質池 光剛
木質池 正則 道子
小内 光
小林 健
古丸 和喜夫
近藤 情
斎藤 真
佐々木 大助
佐藤 利勝
佐野 慎吾
渡佐 幹
清水 恭一
白井 美貴子
高澤 光
高津 麻子

高野 幸一
高橋 佐智子
高橋 正之博
高橋 忍
高橋 建一
高橋 啓明雄
高橋 清隆
高橋 直子
中澤 守正
中村 倉祥
成瀬 倉男
西谷 純一
橋本 正希
原田 アーネスト M. 比嘉
アネスト M. 比嘉
平川 尚義 暢子
枇杷 高志
正木 和久
増岡 利一郎
真野 美千代
真野 麻子
水越 睦美
三浦 高久
滝田 祐太
三橋 恭博
岸村 信幸 京子
森 京子
森口 健
森口 優子
森口 国彦
森下 昭
森下 典彦
山上 重雄

山本 明
吉井 久美子

吉村 美恵子
米岡 修一
匿名 15名

村田 拓郎
安江 美穂
山田 敏之
山中 喜義
山之内 英明

鈴木 美順
横尾 順
古原 美紗恵
渡辺 敦郎
匿名 35名

フレンズ5

東 恭代
有江 純子
石原 祥子
瀬田 伊織
大川 朋彦
*加藤 政晴
奥野 和彦
大野 紀子
野野 愛
小林 義彦
斉藤 潤
佐藤 信一郎
塩塚 誠司

高際 比呂志
寺西 基之
中島 信男
長谷川 泰弘
早川 利郎
古庄 忠志
松信 正秀
村松 幸
山口 聡
山田 修造
山本 浅文
吉田 安達
渡邊 足立
匿名 2名

フレンズ3

秋山 真一郎
明田 重樹
荒 洋一
有坂 あかり
池田 卓志
石澤 聖恵
井上 隆
井上 正昭
岩瀬 元
大北 純
大崎 透
大津 啓一
大塚 展男
大塚 康恭
小川 篤
奥田 桂子
奥田 俊文
小澤 夕里
尾島 切
小田 明子
皆瀬 修
水越 由美子
滝田 伸彦
三橋 基
岸村 綾
北川 盛弘
木下 幸男
木村 一穂
久保 樹
倉谷 孝
小川 宏
古杉 樹
佐藤 悦子

佐藤 香
藤 健司
清水 良枝
杉田 弘
石田 いく子
鈴木 忠明
鈴木 眞理子
須根 三善
関根 祐あゆみ
高石 美貴子
竹内 方紀
中谷 元嗣
都築 幸雄
中村 幸洋
永井 利明
井長 淳子
瀨田 清美
成田 尚弘
西田 直
根本 敏嗣
野口 克己
早川 美奈子
林 京子
福田 昭夫
藤田 淑子
藤田 眉
藤森 唐臣
森野 直樹
舟橋 光代
直樹 一彦
松下 正典

フレンズ1

■あ 相磯 浩
青木 眞寛
野野 輝
赤野 節恵
塚元 淳志
秋倉 大士
朝文 文男
倉達 都夫
安達 めぐみ
阿部 浩子
阿部 靖彦
阿部 百合子
*新生 祥一
井草 公仁
池田 利昭
石井 誠子
石川 幸一郎
磯村 紀
板橋 恵子
井手 勉
伊藤 晴子
伊藤 宗功
伊藤 力雄
稲葉 順一
井上 康子
猪瀬 正
今井 邦男
今宮 美知子
今村 知子
今村 裕子
岩澤 淳子
岩瀬 順子
岩野 裕一
岩野 洋子
内海 重男
内川 真名子
内山 誠
内山 さゆり
山野 耕司
梅崎 和秀
梅田 千枝子
瓜生 ぐすえ

大川 剛
大越 貴志
大嶋 孝義
大島 正初
大島 初彦
大島 康裕
大田 裕美子
大塚 賀久
大友 英子
大友 佳子
大西 由香
大貫 喜信
大畑 久恵
大堀 恵子
大塚 慶裕
大森 幸吉
大八木 節子
*岡田 正道
岡田 美穂
岡田 明徳
岡村 兵衛
小川 幾子
小川 知子
奥田 和歌子
奥田 壮史
奥村 克彦
小倉 ヒロ
小倉 ミハエル
生島 ヒロ
小名 靖雄
小野 雅恵
小野 信也
小野 哲也
小野 英和
小野 美和
小野 純二
小畑 嘉文

■か 甲斐 士
海藤 慶子
藤井 威司
佐々木 和雄
大助 伸
佐藤 一憲
野野 司
渡佐 洋子
白井 里加子
高澤 妙子
高津 善行



©N.Ikegami

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(10月24日現在、五十音順)。

川野 安子 裕美子
川之上 広和
菅野 海 仲治
菊池 雅子
北野 眞亮
北村 眞平
木下 根 弘篤
貴布 好一
木村 強
木村 富 子
京増 純芽
久保 伸一
栗原 潔
黒野 美穂子
小泉 徹
小泉 博
好土 隼子
河野 太
高山 美恵子
国府 里美
国府 周
古平 一雄
*小沼 淳
小沼 敬四郎
小林 恭二
小林 宏州
小林 浩
小林 諒
近藤 光一
近内 友史子
近内 純子
後藤 裕二
*佐々 一宏
さ 齊藤 ひろ子
齊藤 博
齋藤 将隆
齋藤 美陽
齋藤 有司
酒井 典子
坂本 タカ子
前刀 慎明
*佐久 昭宏
間 智子
櫻井 智子
佐々木 通博
佐々木 基
佐藤 圭子
佐藤 幸子
佐藤 勝
佐藤 敦
佐藤 深雪
佐藤 美和子
佐藤 由紀子
重成 睡
茂野 俊郎
重松 恒夫
穴 雅之

篠田 一朗
柴崎 俊也
橋谷 明恵美子
清水 重夫
清水 元崇
志村 代彦
下田 大和
庄司 美あ
白石 重明
菅澤 杉山
相原 慎二
杉山 明子
山洲 奈子
合 鈴木 啓介
鈴木 孝治
鈴木 美和
鈴木 幸恵
諏訪 達穂
清水 美和子
清田 翔太
関 俊朗
関 洋
*た あずみ
高木 敏和
高坂 麻由子
鷹司 主計
高野 洋一
高橋 勝弥
高橋 美穂
高橋 有美
高橋 ユリコ
高橋 由一
高松 則雄
高森 昭
竹内 聖子
竹内 眞也
竹内 美お
竹内 電太
竹内 和彦
竹腰 正隆
竹下 隆行
武田 和泰
多田 由紀子
立野 敬子
田中 慎二
田邊 浩司
谷川 小百合
谷崎 守
種田 守
*田部 井 美也
井 正浩
千田 晴久

千葉 給里
塚 和子
築 玲子
館 淳
津 洋一
久井 治男
井 保子
寺田 東條山
遠 登原
山 富田
登 島居
原 居
富 居
島 居
鳥 居
鳥 居
夕 紀夫
な 中 朋子
神 沢 忠
西 中 容子
村 紀美子
長 岡 秀成
岡 永 郁子
野 富貴子
永 新 麗子
倉 啓介
新 直実
西 晶
岡 陽子
西 淑子
川 淳夫
西 真由
村 里子
西 英昭
村 暢明
根 信弘
野 口 信誠
野 一成
野 真澄
*は 橋爪 千鶴子
橋本 和雄
橋本 憲人
長谷川 博
長谷川 眞男
早川 明男
林 修子
林 博子
林 眞喜子
林 和宏
原 ひとみ
原 慶子
原 泰子
坂東 實
榎 恵子
樋口 行雄
肥後 克文
平田 泰直
平野 直行
廣瀬 茂実
廣中 深沢
藤田 献
藤巻 綾子

吉市 雄二
川 郁美
澤 樹仁
古野 清敏
古野 清由利子
古屋 浩史
細川 智巳
堀江 信子
堀川 信子
ま 泉 光
前 正郎
牧 啓正
口 明
幕 樹
井 秀樹
松岡 淳一
松尾 圭
尾 主聡
松崎 奏之
松澤 繁純
松下 雅則
松本 哲男
丸 弘
水谷 晴彦
水野 純子
水田 尚子
三田 悦子
峯 健司
邑 雅之
宮 佳子
三宅 健司
宮坂 靖子
宮崎 洋子
宮下 朋子
宮上 昇
宮寺 好江
宮本 誠司
村上 卓也
村 正子
上 森弘
村 里美
瀬 政和
室 暁子
田 里美
森 政和
森島 暁子
諺 岡 や
*柳 美智子
沼 康男
安 柳 雅一
富 柳 友幸
柳 和代
矢野 隆幸
山 裕児
山 勇一郎
山 政次
山 政継
山口 昌克
山口 昌生
山田 洋治
山田 俊明
山本 尚洋
湯川 横山

吉岡 真紀子
富 美紀
吉野 民子
吉見 幸子
米田 敬
米村 光
米谷 恵子
克幸

■わ 若田部 矩弘
渡邊 朋子
和田 えみ
*和田 真里
C.S.
N.S.
T.Saito
匿名 158名

■栄誉会員
ヨコ・ナガエ・
チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

鈴木 久子
竹内 容子
齊藤 公治メモリアル基金
牧野 季子
岡橋 純男
岡橋 敦

法人定期会員

[定期演奏会]
東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱い)のみにてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

安齋 優 山崎 雅一郎
清水 達 山崎 真穂
関根 三善 匿名 7名
都築 豊 (敬称略)
東 由美子

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話でお願いたします。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N. Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

主催公演へご案内

ゲネプロ見学会(年3回以上)

リハーサル見学会(年3回以上)

ご芳名掲載

主催公演チケット先行予約*1

公演チケットをご優待価格にてご案内*2

法人会員

サークル
会員

フレンズ会員

フレンズ5

フレンズ3

フレンズ1

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*1について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*

*但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

基礎工学部出身。理論と感覚を操るオーボイスト

荒木良太

ARAKI Ryota

[首席オーボエ奏者] 2023年10月入団

趣味:将棋、旅行



©N. Ikegami

脳科学の世界から、音楽の世界へ

母がピアノの先生だったので、こどもの頃から遊び程度でピアノを弾いていましたが、小学5年生のときにドラマ「のだめカンタービレ」をみて、オーボエに心を奪われました。その後、中学校で吹奏楽部に入部しオーボエを吹き始め、高校に進学後も吹奏楽を続けていました。

大学の進路を決める際に、音楽大学が一般大学か迷い、当時師事していたオーボエの先生に相談。「音楽の道に進むかどうか迷っているならやめておいた方がいい。でも、もしまたやりたいと思ったときにパッと切り替えられるように、普段から腕を磨いておきなさい」と言ってくださり、当時もう一つ興味があった脳科学の研究が盛んな大阪大学基礎工学部に進学することになりました。

大阪大学では阪大オーケストラに入部し、引き続きオーボエのレッスンにも通っていました。するとオーケストラで演奏をすることがとても楽しくなってしまう、大学3年生の頃から「やはりオーボエを吹いていたい」と思うように。今から音楽界に入っても間に合うのか考える1年にしよう、と、セミナーやコンクールを受けてみることにしました。もちろん見通しは全くつきませんが、その時の決意は固かったようで、4年生になり配属された研究室の先生方のご理解もいただいで、念願だった脳科学の研究は控えめに、オーボエに集

中し、阪大卒業と同時に東京藝術大学に進学しました。

理論と感覚と

阪大にいた頃は、普段も音楽をする時も理論で考えることが多かったのですが、いざ音楽の世界に入ってみて、より柔軟に反応しないといけない場面や、直感や感性が重要な場面も多いことを実感しました。最近はどうも理屈で考えることから離れてしまっているのですが(笑)、いまだに理屈的な頭を使っていると感じるのがリード作り。いろんな項目の比較検討の繰り返しで、まさに研究と同じだなと感じています。私はリードの消費が比較的早い方なので、制作に追われる日々。先日旅先のホテルで「みんなでコンマスの部屋で一杯」となった時も、既にリードの準備を始めてしまっていたので、そのままリード製作用マシンを持ち込み、皆さんにつきまれつつも作業しながら楽しく参加しました。

阪大オケの友人と北海道旅行に行きました。



インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

正 団 員

2024年11月1日付

新井瑞穂

ARAI Mizuho [ヴィオラ奏者]

5歳よりヴァイオリンを始め、16歳でヴィオラに転向。第30回ブルクハルト国際音楽コンクール第1位、第34回市川市文化振興財団新人演奏家コンクール弦楽器部門優秀賞、第31回日本クラシック音楽コンクール第3位(最高位)ほか多数入賞。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトX I X、小澤国際室内楽アカデミー奥志賀などに参加。これまでにヴァイオリンを末永千湖、ヴィオラを酒井雅の、百武由紀、市坪俊彦、大野かおるの各氏に師事。東京藝術大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程2年在籍。



新 入 団

2024年11月1日付

渡邊ゆかり

WATANABE Yukari

[チェロ奏者]

正 事 務 局 員

2024年11月1日付

三橋真琴

MITSUHASHI Makoto

[事務局 チケット販売本部]

退 団

2024年11月5日付

小林利彰

KOBAYASHI Toshiaki

[クラリネット奏者]

1983年に入団し、再雇用を経て41年に渡り活動いたしました。

2024年11月23日付

永井聖乃

NAGAI Masano

[ヴィオラ奏者]

1990年に入団し、このたび定年を迎え退団いたします。34年に渡り活動いたしました。



「情熱大陸」に正指揮者 原田慶太楼が出演！

様々な分野で活躍する人々を密着取材し紹介するドキュメンタリー番組「情熱大陸」に、当団正指揮者 原田慶太楼が出演いたします。

11月10日(日) 23:00~23:30 MBS/TBS系「情熱大陸」

1週間の見逃し配信あり。

情熱大陸

検索



©MASATOSHI YAMASHIRO

2025/26シーズン 定期会員券がいよいよ発売



2025 / 26

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan NOTT, Music Director

LAST SEASON

音楽監督ジョナサン・ノットとのラストシーズンとなる2025/26シーズンの定期会員券がいよいよ発売となります。ご購入はTOKYO SYMPHONY チケットセンターへ、お電話でお申込みください。

東響会員先行発売: 2024年11月28日(木) 10:00~

一般発売: 2024年12月5日(木) 10:00~

~定期会員にはお得な6つの特典付!~

- 特典① 年間を通してあなたの指定席を確保
- 特典② 1回券で購入するよりも約30%もお得
- 特典③ 最優先で次年度の継続、座席の変更・追加(同シリーズ)が可能
- 特典④ 主催公演のチケットを先行発売で購入
- 特典⑤ 主催公演の1回券を10%引きで購入(一部対象外公演あり)
- 特典⑥ 単独主催の同月・同一プログラムに限り日程の振替が可能(先着30枚限定)

NEXT PROGRAM



12/7 第727回 定期演奏会
(土) 18:00 サントリーホール

8 川崎定期演奏会 第98回
(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮: ジョナサン・ノット、ヴァイオリン: アヴァ・バハリ

シェーンベルク: ヴァイオリン協奏曲 op.36

ベートーヴェン: 交響曲 第5番「運命」

[12/7] S¥9,500 A¥7,500 B¥6,500 C¥4,500 P¥3,500

[12/8] S¥9,500 A¥7,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,500



12/18 東京オペラシティシリーズ 第143回
(水) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮: 秋山和慶、ソプラノ: 盛田麻央

メゾソプラノ: 富岡明子、テノール: 城 宏憲

バスバリトン: 加藤宏隆

合唱: 東響コーラス、合唱指揮: 辻 博之

ベートーヴェン: 「レオノーレ」序曲 第3番

ベートーヴェン: 交響曲 第9番「合唱付」

S¥8,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



12/28 「第九」2024
(土) 18:30 サントリーホール

29 (日) 14:00 サントリーホール

指揮: ジョナサン・ノット、ソプラノ: 安川みく

メゾソプラノ: 杉山由紀、テノール: 宮里直樹

バリトン: 甲斐栄次郎、合唱: 東響コーラス

合唱指揮: 辻 博之

ベートーヴェン: 交響曲 第9番「合唱付」

SSシングル¥15,000 SSペア¥26,000 S¥12,000 A¥9,000 B¥6,000



ノット×東響のR.シュトラウス・コンサート・オペラシリーズ、遂に完結!

R.シュトラウス「ばらの騎士」(演奏会形式・全3幕・ドイツ語上演・日本語字幕)

12/13 17:00 (金) サントリーホール 15 14:00 (日) ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮: ジョナサン・ノット

演出監修: サー・トーマス・アレク

元帥夫人: ミア・パーション

オクタヴィアン: カトリオーナ・モリソン

ゾフィー: エルザ・ブノワ

オックス男爵: アルベルト・ペーゼンドルフアー

ファーニナル: マルクス・アイヒェ ほか

[12/13] SS¥19,000 S¥16,000 A¥13,000 B¥9,000

[12/15] 完売御礼



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュウザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開。教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど各メディアで絶賛され、第3弾《ばらの騎士》にも期待の声が寄せられている。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。



The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine as well as the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・
高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
【TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION】
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROADCAST
Symphony

Symphony 2024年(令和6年)11月号【非売品】

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュウザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエット